

北陸新幹線に期待する—福井市

社団法人中部開発センター

客員研究員 青山 征人

はじめに

福井市の景観が大きく変わろうとしている。玄関口ともいえるべきＪＲ福井駅を高架にし、北陸新幹線を迎える準備を進めるとともに、同駅の東口、西口周辺を全国でも類をみないような大規模再開発事業を展開するためだ。新幹線整備については、2009年度中に「金沢—福井間」と敦賀駅部の新規着工が認可される見通しで、福井県では2014年の完成を目指してすでに着工している「富山—金沢間」との同時開業を期待する。完成すれば東京と福井間が2時間40分で乗り換えなしに直結し、観光交流、企業誘致などで大きな効果が期待できる。

福井市は、九頭竜、足羽（あすわ）、日野の三大河川が運んだ土砂によって埋め立てられた沖積平野に発達した都市で、2006年2月には美山町、越廼村、清水町と合併して現在の福井市となっている。人口は27万人、面積は536km²である。市西部は越前加賀海岸国定公園、東部は奥越の山々と接するなど、自然が豊富な地域でもある。古くは継体（けいたい）天皇による大和朝廷継承、中世

には新田義貞、朝倉一族の奮戦、近世の柴田勝家の北ノ庄（きたのしょう）城築城、幕末の松平春嶽の活躍など、越前は歴史上の大舞台に数多く登場する。しかし、第2次世界大戦の福井空襲で市内の95%が焼失し、さらに3年後に福井震災に見舞われたために、歴史的建造物があまり残らなかったことが残念である。

I 福井市発展の経緯

1 玄関が変わる

ＪＲ福井駅へは名古屋から特急「しらさぎ」で2時間、クルマなら名神高速道路と北陸自動車道で2時間30分と近い。どちらを利用するか迷ったが、越前海岸や永平寺を訪問することを考え、クルマでのアクセスを選んだ。桜のシーズンとあって平日にもかかわらず北陸自動車道を利用する観光客は多い。福井ＩＣから国道158号線を使って真っ先に向かったのはＪＲ福井駅である。県都の玄関にふさわしい周辺整備、鉄道高架化が実施されていると聞き、どのように変わりつつあるか



福井市とその周辺（地図）



高架化が完成したＪＲ福井駅東口。右手前の低構造物は北陸新幹線の線路になる。中心街は反対側の西口。

見学するためである。福井県は度々訪問しているが、正直言って福井市内は苦手だった。他県の多くの都市と違って道路が「碁盤の目」状に整備されておらず、斜めのしかも一方通行道路が多い上、駅周辺の繁華街は被災地特有の無秩序さを残しており、観光客には不親切に感じられた。その駅周辺が大きく変わっていた。J R西日本・北陸線が800mにわたって高架化され、線路と交差する道路が拡幅されるとともに、駅の東口、西口での再開発工事が進み、駅前がすっきりしてきた。中心街に通じる西口左側部分の建物は再開発計画が難航しているのか、それともこれから取り壊すのか、その一角だけが旧来の姿を残しているように見える。整備が進み広場や地下駐車場が完成すれば景観は一新するだろう。

2 福井城は結城秀康が築城

福井駅から北に徒歩5分の近距離に福井城址がある。天守閣や櫓など当時の建物はなく、本丸の石垣と内堀を残すのみだが、規模は大きく、美しく、堂々としている。石垣は地元足羽山から産出する笏谷石（しゃくだにいし、火山礫凝灰岩（かざんれきぎょうかいがん））で、切石積みという精巧な方法で積まれ、幅50m以上はありそうな堀は、川から取り入れられているのか満々と水をたたえている。各地の城址の中には、堀が干上がって雑草で覆われたものや、一部埋め立てられたも



結城秀康が築城した福井城。切石積みの石垣と水量豊富な内堀が美しい。建物は福井県庁。

のが結構あるが、この城のように今なお豊富な水が石垣を取り巻く姿は実に美しい。城は、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が外様大名の上杉景勝や前田利長の動きを封じるため、家康次男の結城秀康に越前一国68万石を与え、北ノ庄に築城を命じたものである。四重五階の天守閣や多数の櫓を配し、天守閣は高さが30m、土台の石垣に当る天守台を含めると37mにも達した豪壮な城だった。本丸を中心に二の丸、三の丸を配し、四重、五重の外堀が取り囲む環郭式と呼ばれる城郭様式であり、面積は現在の数倍はあったと見られる。しかし天守閣は1669年（寛文9）の大火で焼失し、その後再建されないまま明治を迎えた。秀康は、一度は豊臣秀吉の養子に、二度目は関東の豪族結城家の養子となるなど、他家を転々としたことで、徳川秀忠より5歳年上ながら將軍職に就けず、34歳で病死した。その後継者が長男の松平忠直である。1615年の大坂夏の陣で真田幸村を討ち取るなど大活躍をしたが、恩賞が少なかったことに腹を立て、江戸への参勤交代を怠り、また正室勝姫（將軍秀忠の娘）と不仲になったことで、秀忠の怒りに触れ、29歳で豊後（大分県）萩原に左遷された。

現在、この本丸跡には11階建ての現代的ビルを中心に3棟のビルがそびえる。福井県庁と県議会、県警本部である。城址に軍隊が駐屯したり、外堀沿いなどに公共施設が建設されたケースは多いが、本丸跡そのものに県庁がそびえるのは初めて見た。城址に隣接した中央公園には五箇条の御誓文を起草し、東京府知事など歴任した由利公正や日本美術院を創設した岡倉天心、さらに2・26事件時の総理大臣岡田啓介など福井出身の人物像が建てられている。

3 養浩館と郷土歴史博物館

城址から北に徒歩5分の場所にあるのは、福井藩主の別邸だった養浩館（ようこうかん）と福井市立郷土歴史博物館。養浩館は3代藩主忠昌時代に藩邸となり、芝原用水を引き込んで泉水屋敷と

し、7代吉品（よししな）時代に大改修された。敷地は東西85間、南北45間（12,400㎡）もある大きな池泉回遊式庭園で、池の東側には数奇屋風書院建築が設けられた。残念ながら1945年7月の福井空襲によって建造物は焼け落ちたが、庭園が1982年に国の名勝に指定されたのを契機に復元工事に着手、1993年（平5）に完成した。湯殿や座敷が設けられ、屋根は柿葺き、一部茅葺きの瀟洒（しょうしゃ）な木造建築である。座敷からは巧みな石組みで変化に富んだ景観が楽しめる。鴨がのびのび水と戯れているのが好ましい。

隣接する市立郷土歴史博物館は16代松平春嶽（しゅんがく、春嶽は号で、慶永（よしなが）が諱（いみな））の資料を集めた春嶽公記念文庫や越前松平に伝わる道具類を展示する。記念文庫は春嶽の著作、日記、筆録や春嶽と交流のあった藩主や志士、藩士との書簡、遺墨など5,000点に上る。幕末の1838年（天保9）に田安德川家から11歳で越前松平家に養子に入り、16代藩主に就任した春嶽は、深刻な経済危機に瀕していた財政改革に着手した。中根雪江、橋本左内など門閥にとらわれず登用、熊本からは横井小楠を招いて俟約、殖産興業を行った。1853年（嘉永6）の黒船来航を契機に、幕府が開国か、攘夷かの政治選択を迫られ、同時に將軍家定（いえさだ）の後継者問題が浮上するなど騒然とした時、春嶽は徳川慶喜を推し幕政改革を進めようとした。しかし譜代筆頭の井伊直弼彦根藩主が立ちはだかり、井伊が大老に就任



藩主の別邸だった養浩館。書院からは変化に富んだ景観が楽しめる。

するや、春嶽ら改革派諸侯を隠居させ、春嶽の下で国事に奔走した橋本左内などを処刑した。世に言う「安政の大獄」（1858-59年）である。春嶽は井伊直弼が桜田門外で殺されると、再び幕政に参加、政事総裁職に任ぜられたほか、明治政府でも議定（ぎじょう、新政府三職のひとつ）や民部卿兼大蔵卿など要職を歴任した。

4 柴田勝家を祭った柴田神社

城址から、養浩館とは反対に南に徒歩7分、足羽川右岸に近いところに柴田勝家を祭った柴田神社と北の庄城址公園がある。面積1,427㎡の狭い公園で、小さな神社と柴田勝家像が建てられ、後に発掘された石垣が残る。越前一向一揆を平定した織田信長は、勝家に49万石を与え、上杉謙信の南下を食い止め、一向一揆の掃討を命じた。勝家はこの北ノ庄の足羽川と旧吉野川の合流点を背にして、現在の神社境内に平城を築いた。当時を物語る史料がほとんどないため、規模を伺うことができないが、それでも天正9年にイエズス会の宣教師、ルイス・フロイスが本国に宛てた書簡の中で、「北ノ庄の町は、安土の2倍も大きく、その城は屋根を石で葺いた立派なもの」と賞賛していることから大規模なものであったらしい。道路や橋の整備に力を注ぎ、足羽川には九十九橋を、北を流れる九頭竜川には48隻の舟を鉄鎖で横につないだ舟橋を架けた。九十九橋は北陸道と足羽川が



北の庄城址公園の柴田勝家像。このあたりには九重の天守閣がそびえていたというが、今はわずかの石垣が残るのみ。

交わるところに架けられた、全国にも珍しい「半石半木」の橋である。橋の南半分が石で、北半分が木で作られ、橋の長さは88間（160m）あったといわれる。半石半木にした理由は、「敵が攻めてきた時、木造部を壊して防戦しやすい一方で、洪水時に石部分は壊れないため、木造部だけ修理すれば済む」などと言われているが、本当のことは解明されていない。一方、舟橋については舟を固定する鎖は勝家が刀狩で集めた武器を溶かして作ったと伝えられている。柴田神社にはその時の石柱と船をつないだ鎖が保存されている。しかし勝家は北ノ庄城の完成を見ないまま、秀吉との信長後継争いに突入した。1583年（天正11）、近江・賤ヶ嶽の戦いで敗れてこの城に逃げ込み、秀吉軍を迎えた。お市が最初の夫、浅井長政との間にもうけた3人の娘の救出を条件に、城に火を放ち、お市の方と自害した。

5 継体天皇が皇位継承

柴田神社から西に3分（JR福井駅からは10分）も歩くと足羽川。堤防の両岸に2kmにわたって600本のソメイヨシノが植栽され、4月初旬の満開時にはピンクのトンネルをつくる。「全国桜の名所100選」に選ばれ、福井市民は日本一の桜並木と誇る。市民にとって春の訪れを実感できる、憩いの場所である。福井市や福井商工会議所は4



継体天皇を祭る足羽神社の参道として栄えた愛宕坂。笏谷石の階段が145段、全長165m続く。かつては料亭が軒を連ねた。

月1日から30日までを「ふくい春まつり」月間としてイベントを集中させている。中でも越前時代行列は最大の呼び物で、朝倉一族、柴田勝家・お市、松平春獄など福井の歴史を彩った人物に扮した総勢1,100人が福井城址（県庁）から春爛漫の足羽川まで1.5kmをパレードする。

足羽川の幸橋を渡り、10分ほど行くと足羽山（標高116.8m）を中心とした足羽山公園がある。山上、山麓一帯は、4世紀後半から5世紀にかけて足羽山古墳群が形成され、石棺や多くの副葬品が出土している。山上に継体天皇の石像とそれを祭る足羽神社がある。継体天皇（オオト王）は応神天皇5世の孫といわれ、『日本書紀』によると父は近江高島郡の豪族彦主人王（ひこうしおう）であり、母は越前三国の豪族の娘振姫（ふりひめ）である。振姫の美しさを聞き、呼び寄せて妃（きさき）にし、オオト王が生まれたとある。しかしオオト王が幼い頃に彦主人王が亡くなり、母はオオト王を連れて越前に帰った。武烈天皇の死後、507年に大伴金村らがオオト王を迎えに来たため、河内樟葉（くずは）の宮で26代継体天皇として即位し、その後20年間京都など転々とし、大和に入ったとある。継体天皇の石像は、1884年（明治17）に笏谷石の採掘にたずさわっていた石工達が遺徳を讃えるため建立したもので、方向はオオト王の治水伝説の残る九頭竜川河口に向けられている。

足羽山の神社への参詣道として愛宕坂がある。



4月11日に行われた越前時代行列。総勢1,100人が武者に扮するが、主役の柴田勝家に今年は俳優の金子貴俊（かねこたかとし）さんが選ばれた。

全長165mの笏谷石で作られた石段で、料亭街として栄えた。その途中に、幕末の歌人・国学者であった橋曙覧（あけみ）記念文学館がある。曙覧は中央の歌壇と交わることなく、ひっそりと生涯を送った地方歌人だが、没後正岡子規らが評価した。1994年6月に天皇皇后両陛下が訪米された際、クリントン大統領による歓迎のスピーチで曙覧の『独楽吟』から、「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時」の一首が引用された。

6 一乗谷朝倉氏遺跡と永平寺

福井市街を見学するだけで1日かかり、次の日は郊外を回った。市内から県道6号を走って福井市大味町に出る。海岸線に並行する国道305号線はあちこち工事中だが、道路幅は広く、快適で、あわら温泉―東尋坊―越前岬を結ぶ格好の観光道路となる。反対に、福井市街から南東10kmにあるのは一乗谷朝倉氏遺跡。今から500年前、戦国大名朝倉氏が5代100余年に亘って支配した城下町遺跡である。400年以上も埋もれていたことが幸いしてそっくり遺跡として残され、1971年（昭46）に278haが国の特別史跡に指定され、発掘・整備が行われた。1991年には遺跡内の諏訪館跡庭園など4庭園が国の特別名勝に指定された。長年の発掘調査の結果、戦国時代の城下町の構造が明



福井市の西方は日本海。海岸線に沿うように国道305号線が整備されており、あわら温泉、東尋坊や越前岬を結ぶ観光ルート。

らかになったのは全国でここが初めてである。調査結果によると、城下町は、一乗谷に沿った狭い平地部に朝倉館を始め、武家屋敷、寺院、職人町が道の両側に建てられ、町の両端は頑丈な城戸（きど）で仕切られている。この町を守るため、4方向の山に一乗谷城など城を配置している。立体復元地区では、武家屋敷や町屋が当時の材料を使って忠実に復元されており、戦国時代の城下町の様相、生活ぶりを伺うことができる。

朝倉氏は、但馬（兵庫県）の出身だが、南北朝の動乱期に朝倉広景が越前守護斯波高経に従って入国したのが始まり。応仁の乱の時に初代孝景は西軍に参加したが、その後東軍に鞍替えて次第に勢力を拡張し、最終的には守護斯波氏、守護代甲斐氏と戦ってこれを破り、越前一国を手に入れ



一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国時代における城下町の構造をそっくり残している。館の正面跡にある唐門は義景の菩提をとむらうために建てられた松風院の旧門・街並みが復元されている。



曹洞宗大本山永平寺。禅の道場にふさわしい深山幽谷の地に大小70余の殿堂が建ち並ぶ。

た。一乗谷は、政治、文化の中心地として繁栄し、5代義景の時代には足利義昭が将軍職を欲したため一乗谷に義景を訪れたこともある。しかし1573年（天正元）、織田信長と手を組んだ平泉寺衆徒が放火したため街は灰燼（かいじん）に帰し、政治の中心は北ノ庄に移った。

一乗谷から国道364号線を北東方面にたどると30分程度で曹洞宗大本山永平寺である。開山道元禪師は、中国に渡り、天童山の如浄（じょじょう）禪師について修業し、1227年（安貞元）に帰国後は京都建仁寺などで修行し、1243年に越前に来た。吉田郡永平寺町志比の現在地に中国の年号である永平にちなんだ寺を開き、禪の修業道場とした。広さ33haの境内には山門、仏殿、法堂、僧堂など大小70棟以上の建物が並び、周囲を樹齢600年以上の杉の巨木が取り囲む。山門や仏殿は総けやき造りで、簡素かつ重厚なのだが、門前町には土産物屋が連なり、大声で客を呼び込むのには閉口した。

II 福井市の目指すところ

I 「人、街、自然、文化の共生・調和」

福井市は2012年3月を最終年とする第五次福井市総合計画「21世紀を拓くふくい創造プラン」を策定し、進むべき方向性を示している。「人」をキーワードとして、人と人が、人と街が、人と自然が、人と文化がそれぞれ共生・調和することによって、単に物質的な豊かさだけでなく、市民にとって「住んで楽しいまち」、訪問者には「訪れて楽しいまち」を感じさせる魅力ある都市づくりを、市民と行政が連携・協働しながら行っていく。その一環として、2008年10月から福井市景観計画を施行し、市街地再開発事業を始めとした「福井らしい景観」づくりを進める。さらに観光基盤の充実、新たな観光素材の発掘、周辺地域との連携強化など観光政策を強化して、2017年には市の観光収入ともいべき観光消費額の30%アップ(2006年比)を目指している。

福井市には広大な農地や緑豊かな山々、人々の生活を潤す九頭竜川、足羽川、日本海特有の海岸線など四季おりおりに変化する、日本の原風景ともいべき美しい自然環境がある。また歴史遺産も朝倉孝景が築いた一乗谷城や福井城など豊富だし、周辺地域には永平寺、あわら温泉などがあり、観光資源に恵まれている。また繊維産業で培ったモノづくり文化や多くの偉人を生んだ人づくりの伝統もある。「食」にいたっては越前がに（ズワイガニ）に代表される魚介類、福井が発祥のコシヒカリやソースカツ丼、越前そば、山野菜類などまさに味の宝庫といえるほど豊かであるが、こうした材料をいかに組み合わせ、磨きをかけるかが課題といえる。

2 世界に誇れる景観づくり

福井市が、景観への取り組みを開始したのは21年前の1988年（昭63）からである。有識者で構成する福井市まちづくり・都市景観懇談会が「魅力ある福井市の都市景観の実現のために」と題する提言を市長に提出した。翌89年には都市景観シンポジウムの開催や福井市都市景観賞の設置などによって市民レベルへの景観意識の浸透が図られるとともに、福井市の都市景観整備の基本的な方向性を示した「福井市都市景観基本計画・1989」が策定された。そして91年には福井市全域を対象とする都市景観条例（自主条例）を制定し、届出制度や景観重要建築物等の指定に乗り出した。2006年には景観法に基づく景観行政団体に名乗りをあげ、2008年10月には届出対象や景観形成基準などを定めた福井市景観計画と合わせて条例を改正し施行した。一定規模以上の建物や屋外広告物については届出を義務付け、場合によっては勧告や変更命令を行っていく。福井市の景観は、平地景観、山地景観、海岸景観の3つに大別されるため、これを地域、特性によって7つのゾーンに分けてそれぞれ景観保全していくが、特に重点的に整備を行う必要がある福井都心地区、一乗谷地区、越前水仙群生地区の3ヶ所は景観形成重点地区と

位置づけ、住民の合意形成を図りながら積極的な施策を展開していく。都心地区は、市民が誇りを持ち、福井らしさを実感できるシンボリックな景観、一乗谷地区は400年以上前の戦国城下町の歴史と文化を未来に継承する景観、また越前水仙群生地区は、福井県を代表する観光・レクリエーション拠点にふさわしい自然・文化的景観を目指している。

■ 感想

全国調査によると、福井県または福井市の評価は「住みよさランキング」で福井市が全国4位、グルメランキングで福井県は47都道府県中第1位。また「人口10万人当たりの出身地別社長数」で福井県は26年間連続首位という調査もある。しかし地域ブランド力（知名度）となると、県別で福井県が42位、福井市が773位と極端に低い。こうした結果になる原因は、県民性が地味で、声高に自己主張しないことが考えられる。観光についても隣の石川県や滋賀県に比べて情報発信はひかえめ。少子高齢化の中で、都市間、観光地間の競争は激しくなり、観光客も取り合いになることが予想される。そのためには積極的な振興策が必要になる。幸い北陸新幹線は金沢―福井間の新規着工にめどがついてきた。首都圏と直結すれば、東京まで2時間40分で行くことができ、産業活動の活発化を促進するし、首都圏や長野県から観光客を呼び込むことも可能となる。そのためには市内の観光基盤を充実すると同時に、周辺観光地との連携を強め、通過型から宿泊型観光地に脱皮する必要がある。

福井市は第2次世界大戦の空襲で市内の95%を焼失し、1,500人の犠牲者を出すなど壊滅的な被害を受け、3年後の1948年には福井地震で被災した。しかしそのつどこれらの難局を乗り越えてきた。今後の活躍を期待したい。最後に「食」については、1泊2日の取材で食べた会席料理、寿司、越前そばとも最高に美味しかった。

なお今回、主題が福井市の景観、観光問題のため、福井県としての取り組みを紹介しなかったが、



食の寿司会席。左下から時計回りにブリ照焼、山菜天ぷら、ほたるいかの酢みそ、タイ・赤イカの刺身、寿司、真ん中はエビのバンジャンあえなど。果物、汁がついて3,000円。

福井県では今年2月に観光交流を通じての活性化策「新ビジットふくい推進計画」を策定し、2013年までの5年間で観光客数10%増、観光消費額20%増、外国人客数4倍を目指す数値目標を設定して積極策を展開していくことを付記しておく。

参考文献

- (1970)：「福井市史Ⅰ」（福井市）
- (1976)：「福井市史Ⅱ」（福井市）
- (1982)：「福井県史・資料編3」（福井県）
- (2000)：「福井県の歴史」（山川出版社）
- (2000)：「福井県の歴史散歩」（山川出版社）
- (2005)：「街道をゆく・越前の諸道」（朝日新聞社）
- (2008)：「越前朝倉氏の研究」（吉川弘文館）

市長インタビュー

福井市長 東村新一氏に聞く



コメント「今年末までには北陸新幹線・金沢―福井間の着工および完成時期が示されるものと期待している。さらに敦賀まで延伸し、最終的には大阪までつないでもらって、東海道新幹線の補完ルートとして活用してもらいたい。」

略歴

- 1975年 3月 日大法学部卒
- 1975年 4月 福井県採用
- 2000年 4月 県民生活部企画参事
- 2002年 4月 同新鉄道会社支援室長
- 2003年 6月 総務部政策推進課長
- 2004年 4月 同人事企画課長
- 2005年 4月 同企画幹
- 2006年 3月 福井県退職
- 2006年 4月 福井市副市長就任
- 2007年 11月 福井市副市長退職
- 2007年 12月 福井市長就任

福井県出身、56歳

―北陸新幹線金沢―福井駅の完成スケジュールが見えてきました。福井市長としての感想を聞かせてください。

東村 「金沢―福井間」については昨年12月の整備新幹線に係る政府・与党ワーキングの合意事項の中で新規着工区間に盛り込まれ、2009年度の子

算案に着工調整費が計上された。今後各種の検討を経て今年末までには「金沢―福井間」の着工および完成時期が示されるものと期待している。私どもは、まちづくりを推進する上で、また都市間競争に取り残されないためにも一日でも早い認可・着工を希望しており、県や関係機関と連携を密にして、国に要望していく。さらに「福井―敦賀間」まで延伸すると同時に、最終的には大阪まで繋いでもらって、東海道新幹線を補完するバイパス機能を持ってこそ完成したといえる。

―企業誘致や観光客の誘客など新幹線効果は大きい。それを見越して市としても体制づくりを急がなければなりません。

東村 先日、長野県の上田市を視察してきた。新幹線が停車すると、人のながれや町の賑わいが従来と大きく変わることを知った。このため開業前に十分体制を整えておき、直前になってあわてないようにしておく必要がある。幸い福井市は今年6月7日に第60回全国植樹祭を開催することになっており、その経験が活用できると思う。植樹祭の開催場所は、特別史跡、特別名勝、重要文化財の三重指定を受けている一乗谷朝倉氏遺跡をメイン会場とするが、今まで決してメジャーとはいえない福井の観光資源を全国発信する絶好のチャンス。観光資源に磨きをかけるとともに、市民には客をもてなす心を持ってもらう。多くの観光客に来ていただき、喜んでもらい、次も「福井に行きたい」と思ってくれるような体制づくりをしたい。福井市は、豊かな海の幸に恵まれ、また山菜など山の幸も豊富。古くからの歴史や文化も数多く残っており、決して他の観光都市に劣るものではないと思っている。福井市だけで観光都市化ができなければ、近隣市町と連携して整備していけば、滞在型観光地としての活路は開ける。

―そのためにも景観保全が大切です。福井市は昨年景観計画を施行しました。どんな都市景観を目指しますか。

東村 本市は日本列島のほぼ中央に位置し、日本

の原風景とも言うべき美しい自然があり、しかもそれは春夏秋冬はっきりと四季の変化が感じ取れる自然である。この美しい自然をベースに先人達が築き、育ててきた福井固有の歴史や文化、生活の営み、まちの賑わいが相互に作用する「福井らしい景観」をつくっていききたい。このため福井市全域を対象区域とするとともに、重点的に取り組む区域は特定景観計画区域として指定している。その一つ、料亭街の浜町では、住民の方々に提案していただき、歴史的建造物を活かした景観づくりに取り組んでいる。それと本市の景観計画の特徴は、緑化を厳しく指導していること。届出の対象となる建物を建てる場合に、敷地と道路の境界部には必ず緑化してもらい、緑を介してまちと自然の景観の一体感が得られるように配慮してもらう。春の芽吹き、秋の紅葉、冬の雪景色など四季の移ろいがくっきり浮かび上がる町並みにしたい。それともう一つは夜間景観を重視した取り組みである。魅力ある夜間景観を創出することで、市民、来訪者の夜間外出の機会を増やして商業活性化、観光振興に繋げたい。夜間のライトアップやイルミネーションは昼間と違った魅力を引き出すことになり、2度、3度と訪れたいと思われる街にしたい。

一 米国のサブプライムショックが全世界に波及し、地方経済と自治体への影響は深刻です。特に福井市は旧美山町など3町村を合併したため大変では。

東村 まず合併については、これまで各市町村が異なる発展過程をたどってきたのと、インフラ整備など整備水準が異なることもあって新しい福井市の一体感を醸成するにはある程度時間がかかる。しかし新福井市としては、合併町村との交流を活発化して、インフラを含む市域全体の整備水準を高めていくように努力する。

次に米国のバブル崩壊の影響だが、福井市の場合、川下産業が多い地域ということもあって、全国規模の影響が現れるのは遅くなる傾向にある。しかし経済のグローバル化は押し寄せており、税

収見通しでは対前年度比27億円の減収になる見通し。このため国の地方交付税や臨時財政対策費はもとより合併特例債や地域振興基金などあらゆる財源を有効に活用し、2009年度予算は一般会計当初予算で、対前年度比2.2%増という積極的な予算編成にした。厳しい経済・雇用情勢に対応するための施策と市民生活の安全安心に重点をおいて編成した。

一 産業活性化策や企業誘致策は。

東村 今後ますますグローバル化する本市の産業に、どのような支援策が必要か見極めたい。そのため経営指導や経済情報の提供、金融相談などを実施してニーズを把握するとともに、中小企業の省エネ、新エネ設備への転換資金などについて助成していく。

また企業誘致については、主要な工業団地として「テクノポート福井」や「福井市中央工業団地」があり、61企業が操業しているが、まだ分譲余地があり、誘致を進めていく。福井県は北陸自動車道によって東海圏、関東圏と結ばれており、今後中部縦貫自動車道、北陸新幹線が実現すれば、日本の中心都市として全国と結ばれていく。

またこれまで魅力が乏しく就業人口が減少していた第一次産業についても、その魅力を高めることで、新たな就業先として目を向けてもらうような努力をしたい。このため2009年度予算では新規就農者支援、越前水仙の大規模植え替え、耕作放棄地への入植促進、間伐材資源の有効活用、アワビやヒラメの養殖推進など農林水産業への取り組みを強化した。

一 ありがとうございます。